

制度通

三四

74

6328

2



門 7 24
6328
2

制度通卷三

伊藤長胤 輯

三公三師三少ノ事

○イニレハ堯ノ時舜ヲ百揆ニ納ルト云コト書ニ見ル即後
世宰相ノ職ナリクノ時ニ契ハ司徒タリ禹ハ司空タリ何モ
後世三公ノ職ナレトモサダシテ三公ト名ヅクルコト書經ニア
ラハス記曰虞夏商有師保有疑丞設四輔及三公
三公ノ職上世ヨリモ設ケ置カルコトシレハ周ノ世ニ至リテ太



制度通

卷三

一

師太傅太保ヲ三、公トシテ論道經邦、察理陰陽、
コトヲ掌ル少師少傅少保ヲ三、孤トステ三、公ヲタスク
ルコトヲ職トス又ニ少トモ云六、卿ニアハセテ是ヲ九卿ト云
周禮ニイハユル三、槐九棘ノ位即コトナリ又冢宰ト云
官アリ書經論孟等ニ見ル時ノ首相ナリ書經ノ周
官並ニ周禮等ヲ考ヘルヘシ

周三公

太師 太傅 太保

是為三公

官圖

少師 少傅 少保

是為三孤

○秦ノ始皇ノ時ニ盡ク古法ヲヤフリ古ノ三公六卿ヲ廢シ
太尉丞相御史大夫ノ三官ヲ置テ天下ノ事ヲスヘオ
サム太尉ハ主五兵丞相ハ總百揆御史大夫ハ戴於相
ト畢竟太尉ハ武官ナリ丞相ハ政事ヲツカサド御
史大夫ハ目ツケナリコノ三職ニテコトクク天下ノ政
事ヲスフニ公ノ名ハ立テサレトモ後世ノ三公コレニハニ
ル

制及通 卷三

秦三公圖

太尉

丞相

御史大夫

○漢ノ始ノ秦ノ制ニヨリテ丞相太尉御史大夫アリ高
 帝ノ十一年ニ丞相ヲ更メテ相國ト名ケケル哀帝ノ時
 ニ又大司徒トアラタメラル武帝ノ建元二年ニ太尉ヲ省
 キテ元狩四年ニ初テ大司馬ヲ置ケリ成哀ノ時ニ更メ
 テ御史大夫ヲ大司空トス杜氏通典ニ云哀帝ノ時ニ

漢三公圖

大司馬

大司徒

大司空

大司馬大司徒大司空ヲ定メテ三公ノ號トスト其後後
 漢ノ世ニ至リテ太傅一人ヲ上公トシテ太尉司徒司空ヲ
 三公トス是ハ秦並ニ前漢ノ法ヲ増損シテ定メラル後世
 唐已來ノ三公モハ是ヲ以テ法トス畢竟秦ノ丞相御
 史等ノ名ヲ古名ニカヘタルナリ

後漢三公圖

太尉

司徒

司空

○ツノ後三國南北朝ニテノ間時ニヨリ丞相相國等官アリ其間三公政府ノ沿革ニテクニシテ晋ノ時ニ三師三公ノ官周ニ通リニテコト外ニ大司馬大將軍アリ是ヲ合セテハ公トスツノ後ノ事記スルニ及ハズ

○隋ノ時ニ三師アリ三公アリ三師ハ不主事不置府僚三公ハ府僚アリテ國ノ大事ヲ參議スレカレトモ朝ノ衆務ハスベテ其臺閣ニ歸ス

○唐ノ世隋ノ制ニヨリテ三師三公ヲ置ク並ニ官屬ナシ

唐三師三公圖

大師 大傅 大保

是為三師

大尉 司徒 司空

是為三公

制度通

卷三

○通典云唐復置三師以師範一人儀刑四海置三公以經邦論道燮理陰陽並無其人則闕天寶以前凡三師官雖有其位而無其人ト 本朝三則闕ノ官トスコトコレニ本ツク

本朝之制置三公

○唐ノ時ハ三師三公アリ 本朝ニハ夕、三公ハカリニシテ三師三少等ノ官ナシ故ニ 孝謙帝改號ノ時ニモ三師ノ號ヲトリテ三公ノ名ヲ易ヘラルナリ
 本 太政大臣

朝三公圖

左大臣
右大臣

是為三公

○本朝ノ三公ハ師範ノ設ノミニアラズ太政官ヲ尚書省ニ準スハ左右ノ大臣ハ即長官次官ナリシカハ唐ノ三公ノ名ト尚書省ノ長官次官ト又平章事同三品等ノ宰相ノ任トラ一ツニシクルモノナリ下ノ太政官ノ條ニ詳チ併セ考フヘシ
 ○宋ノ國初三師三公ノ名唐ノゴトニ徽宗ノ世ニ太尉司徒司空ヲ罷テ太師太保ヲ首相トシ少師少傅少保ヲ

次相トス是ヲ三公三孤ト云

○元ノ時太師太傅太保各一員是ヲ三公トス世祖ノトキ太保バカリ一員ヲオク又太尉ノ属或ハ置キ或ハ不置定名例ナレ

○明ノ時三公少ノ名宋ノ時ノコトシ定リ名職掌ナレ大臣贈官加官タリ會典云國初置三公府後不設官不專

授但為大臣加官及贈官

太師 太傅 太保

是為三公

少師 少傅 少保

圖

是為三公

○明ノ時天下ノ政事ヲサバクハモハラ大學士是ヲ掌レ是ヲ内閣

辦事ト云又閣老トモ云閣老ト云コトハ唐ノ時ヨリ是アリ

テ中書舍人ノコトナリ明ニテハ宰相ヲ稱シテ閣老ト云

張太岳ヲ張閣老ト云丘瓊山ヲ丘閣老ト云カコトキ是古

中極殿大學士 舊為華蓋殿大學士

建極殿大學士 舊為謹身殿大學士 洪熙年初設

文華殿大學士

武英殿大學士

明 六 閣 學

文淵閣大學士

以上初專設後皆以師保尚書等官兼任

東閣大學士

○治平畧ヲ按スニ太祖洪武二年ニ翰林院ノ官制ヲ定メ三年

ニ弘文館學士ヲ置クツノ後十五年ニ宋朝殿閣大學士ノ制ヲ立

文儒ヲ崇メテ劉仲質等ヲ以テツノ閣ヲ分チ掌ラシムルモ

ツノ時ニイニダ宰相ノ責アラズ洪熙ノ初年ヨリ大學士權重クシテ

宰相ノ任トシ治平畧ニ又云洪熙初年以東宮舊臣特加超擢

又添設謹身殿大學士于是華蓋謹身武英三殿之名全矣

後委任日隆加至三孤領尚書職隱然有鈞衡之重禮典百僚殊絕

▲唐三省 本朝太政官ノ事

○三省ト云ハ尚書省中書省門下省ナリ省トハ禁ト云ト

同キコト禁中ヲ又省中トモ云漢ノ元帝ノ皇后ノ父名

禁ト云コノ諱ヲ避テ省中ト云ト蔡邕邕獨斷ニ見ハル是テ

禁密ノ官府ヲ省ト稱ス

○尚書ハモト秦ノ官ナリ尚ハ主也ト訓ス殿中ニ在リテ王

書故ニコレヲ尚書ト云漢ヨリ來キノ官アリテ後漢ノ靈帝

ノ時ニハシテ尚書臺ノ號アリ

○中書ハ漢ノ武帝ノ時ニオコル武帝後進ニ遊宴セラルニ

ヨリテ宦者典事尚書故ヨレラ中書トス中書令等官
アリ魏晉ノ世ニ至リテ中書省トイフ名オコル

○門下トハ黃門ノ下トイフコトナリ後漢ノ時コレヲ侍中寺ト
云黃門侍郎侍中ト俱ニ門下ノ衆事ヲ管ス故ニ之ヲ
下省ト云

○三省ノハシニリ上ニ舉ル通リニテコレヲ合セテ三省ト云コトハ
唐ノ世ヨリコノカタ如此晉ノ時ハ中書省秘書省門下
省ト三省アリテ尚書省ヲ尚書其至ト云劉宋ノ時ニ尚
書中書門下省アリテ秘書省集書省ヲ合セテ五省ト云

隋ノ時ニ尚書省門下省内史省秘書省内侍省ヲ立
テ五省ト云ソノ餘記スニイトミアラス

○唐ノ時ニイタリテ隋ノ制ヨリテ稍沿革アリ尚書省明
下省中書省ノ三省ヲ置テ天下ノ政事ヲツカサトリ
モニ政府タリソノ長官ヲ宰相トス尚書省ニテハ尚書令
門下省ニテハ侍中中書省ニテハ中書令是長官ナリ
クノ内尚書令ハ高祖ノ武德ノハジメニ太宗奏王タル時ニ
コノ官ニ任ジタマフニヨリテツノ後臣下タルモノ遠慮シテ
コノ官ニアタラスコレハ高宗ノ龍朔三年ニ制アリテコノ

官ヲヤソラル代宗ノ廣徳年中ニ郭子儀勲業盛ナルヨリ
テ各別ニ拜セラルトモ右ノユヲ以テ辞退シテ拜セズ是ニ
ヨリテ侍中中書令ノ二官宰相ナリ

○通典云大唐侍中中書令是眞宰相餘以他官參
掌者無定負担加同中書門下三品及平章事知
政事參知機務參興政事及平章軍國重事之名
者並為宰相同三品トイフコトハ中書令侍中ノ二官ハ
中書省門下省ニテ三品ノ官ナリツノ任コノ二官ニ準スル
云ニ同中書門下三品ト云是ヲ同ト云ハ準シ並フ意ナリ

○三省トモニ後漢已來天子近習ノ官ニテハシメハ官者ヲ
以テ任セラル晉南北コノカタ士人ヲ用ヒテ段々ニツノ權威
ニシテ天下ノ政ヲ執リ遂ニ宰相ノ任トナルソレユヘニ三公三師
ハ位尊トイヘトモタ名バカリニテ權ナク三省六部ノ官
人專ラ事ヲ取り行フ大抵後漢ノ光武ノ時ニ前漢ノ
世三公專權ノ弊ニヨリテハシメテ尚書ヲ置カレテ三公職
ヲ失ヒ曹魏ニ中書省ヲ置カレテ尚書ウトシセラル東晉
以來侍中ノ權專ニシテ中書ノ職ワカル南北ヨリ唐ニテ
ノ間コノ通りニテ後ニ政事堂ニテ事ヲ議シ政事堂ヲ

中書門下上之乃温公說分明方左是之舉

○司馬温公曰謹按西漢以丞相總百官而九卿分天下之事光武中興自親庶務事歸臺閣尚書始重而西漢公卿稍已失職矣及魏佐漢初建魏國置秘書令典尚書奏事文帝受禪改秘書為中書有令有監而亦不廢尚書然中書親近而尚書疎外矣東晉以後天子以侍中常在左右多與之議政事不專任中書於是又有門下而中書之權始分矣降及南北朝大抵皆循此制唐初始合中書

令之權始公職故有同中書門下三品同中書門下平章事其後又置政事堂蓋以中書出於詔令門下掌駁日有爭論紛紛不決故使兩省先於政事堂議定然後奏聞開元中張說奏改政事堂為中書門下自是相承至于國朝莫之能改非不公也理勢不可復分也

○源流至論曰三省之職起於秦漢三省之任重於東都魏晉以尚書省統天下之務中書省總機要之司門下省掌出納之命則唐興本朝也

唐三省六部圖

中書省

門下省

尚書省

宣奉

中書令

覆奏

侍中

頌行

左僕射

右僕射

吏部

戶部

禮部

是為左司

兵部

刑部

工部

是為右司
各有尚書侍郎

○三省ハ何レモ天下ノ政事ヲ掌トル宰相ノ任ナレドモソ内職掌同カラズ中書省ハ天子ノ命令ヲ傳フル官ニテ詔勅ヲ宣奉スルコトヲ掌ル門下省ハギンニ役ニレテ詔勅ヲ

覆奏スルコトヲ掌ル尚書省ハ天下ノ事ヲ引受ケ詔勅ヲ

施行スルコトヲ掌ル是ヨリテ三省ヲ並設フル文獻通考

ニ宋ノ張琳夜カ云命令之出中書宣奉門下審讀

尚書頒行ト又富鄭公ノ云古者詔命皆中書奉行

門下省審封駁改正教有司存ト其職掌ノ別大畧ニ

ルヘシ

○唐ノ時三省ノアリ所ニ方ニ分テリ尚書省南ニアリ門下
中書ノ二省北ニアリ是ヨリテ尚書省ヲ南省ト云門
下中書ヲ北省ト云北省ノ内ニテ門下左ニ在リ中書右

ニ在リ故ニ又左省右省ト云通シテ是ヲ兩省ト云サテ尚書省之中ニ大廳アリ是ヲ都堂ト云都堂中ニ在リテ左右ニ司ヲ分ツ東ニ吏部戸部禮部ノ三行アリテ每行ニ四司アリ左司コレヲ統フ西ニ兵部刑部工部ノ三行アリテ每行ニ四司アリ右司コレヲ統フ右ノ通リテ唐ノ世ニ三省ノ起始職掌大畧ニ云ヘシ

本朝之制太政官總天下之事左右辨分管八省

○本朝上世ニ大臣ノ辨ナシ執政ノ人ヲ稱シテ食國申政ケクニシツリユヒマフス大夫ト云景行天皇ノ時ニ武内ノ宿禰ヲ棟梁臣ト

ス成務天皇ノ時ニハシノテ武内宿禰ヲ大臣ト辨ス大臣ノ名是ニハジミ仲哀天皇ノ時ニ大伴武持ヲ大連ト辨ス是ヨリ大臣大連相並ニテ事ヲ行ヒ代々大臣大連ヲ置ケリ皇極天皇ノ四年六月ニ孝德天皇即位阿部倉橋麻呂ヲ左大臣トシ藤我山田石川麻呂ヲ右大臣トシテ大連ヲ罷ノラル左大臣ノ名是ニハジミ天智天皇ノ十年ニ及テ大友皇子ヲ以テ太政大臣ニ拜セラル持統天皇ノ時ニ高市皇子又任セラル是ニオイトニ公ノ名備レリ又天智天皇ノ八年ニ中臣鎌

子連ヲ禁テ内大臣トシ藤原朝臣ノ姓ヲ賜フ文武
天皇ノ令ヲ撰ミタニラ時三ノ官ナキニヨリテ是ヲ令外ノ官
ト云

○孝謙天皇天平寶字二年太政官ヲ改メテ執政官
ト云太政大臣ヲ太師ト改メ左大臣ヲ太傅ト改メ右大
臣ヲ太保ト改メ大納言ヲ御史大夫ト改メツノ餘官
歸コトクク改更セラルル同八年淡路帝ノ時イタリテコ
トゴトク舊名ニ復セシメ光仁帝ノ時ニ又内大臣ヲ任セラ
レ左右大臣ノ下ニアリ

太政官左右辨管圖

左辨		右辨	
中務省	式部省	兵部省	刑部省
治部省	民部省	大藏省	宮内省

○太政官左右辨管ハ省ヲ制唐ニ準シ左辨官ハ中式治
民ノ四省ヲ掌管シ右辨官ハ兵刑藏宮ノ四省ヲ掌管
スツノ事詳ニ職負令ニアリサテ左大臣ハ左辨官ノ高ヲ

掌り右大史ハ右辨官ノ局ヲ掌リ外記少納言ノ局ヲ
 掌ル是ヲ合セテニ局ト云職原抄云太政官中有三局
 左右辨官外記是也ト近世ニイタリテ左大史右ラカキ是
 ヲ官務ト云外記ノ上首ヲ局務ト称シ是ヲイハセテ西局ト
 云本書ヲ考フヘシ

○本朝三公ノ職唐官ニ配當スルキハ周ノ制並ニ唐ノ三公
 ヲ以テイハ太師太傅太保ニ準ス 孝謙帝ノ時改號
 コレヲ以テ称ヒフルハナルヘシ唐ノ制ヲ以テイフトキハ尚書省
 太政官ニテタカ尚書省ノ長官貳官ヲ尚書令左僕射

右僕射トイフ實ニ 本朝三公ノ任ナリ然トモ唐ノ時ニハ
 尚書令ハ三省ノ長官ニテ宰相ノ任ナレドモ三公ノ負數ヲ
 ラス宰相ハ必僕射ヲ兼レトモ僕射ハ宰相ノ官ニアラス
 本朝ノ法ト同カラズ大抵 本朝唐ニヨリテ官制ヲ立
 ラレタレトモ此等ノ事ハ唐ノ法ヨリ簡ニシテ正シク三公即
 宰相ノ任ナリ名實相副フテ重複虚設ノ弊ナシ又相國
 丞相家宰等ノ名ハ古今ノ沿革時ニヨリテ同カラザレトモ
 何レモ首相ノ任ニシテ 本朝ノ太政大臣ニ準スヘシ
 官制ノ事通シテ之ヲ考フルニ古今ノ間年代オシク

ツリタルニハ古ノ官權ナシトイヘトモ廢シカタク新キ官
 事ニアタリテ設ケ置カザレカチハサレニヨリテカクノゴト重
 複スレトナリ周漢ノ時ハ三公天下ノ事ヲ取行フテコノ
 外ニ執柄ノ官職ナシ後漢コノカタ中書門下尚書等
 ノ權盛ナルニヨリテハ三公虛位トナル唐ノ時ニ及テハ三公
 虛位タルノミナラズ三省モ又後漢南北ノ時ノゴトクニテ
 ラズ是ニオイテ平章事同三品等ノ職出來リテ政事
 ヲ掌ル杜佑ノ奏議ニ云舊名不廢新改實且加ト即
 コノ事ナリトシ夫 本朝ノ制ハ上世簡朴ノ後ヲ承テ

新ニ一王ノ大法ヲ立ラレ唐ノ禮法ニヨリ本ツキテ并テ
 古今ヲ參ヘ考フテ政官尚書省ニテスラハ其長官
 スクニ三公トシテ別ニ師傅保ノ名ナシ中務省ハ中書
 省ニ準ストイヘトモ是ヲハ省ニ列シテ又門下省ヲ置
 レズ此唐ノ三省 本朝ニ在リテハ夕、一官ニテ事ヲ治
 ムニユシナリ

○宋ノ時ニ三省ノ設ハ唐ノコトニ神宗ノ元豐中ニ官名ヲ
 改メテ中書令侍中ヲ改メテ開府儀同三司トス寄
 祿官ノ内ナリ是ハ宋ノ時官制正シカラザルニヨリテ神宗

ノ時ニ改正セラレテ唐ノ世ノ官職ヲ多ク階官トスコレヲ寄祿官ト云宋人ノ書ニイハユ元豐官制行ト云コノコトナリ

○宋ノ時ニ樞密使ノ官アリ專武事ヲ掌ル中書省ハ文事ヲ掌ル是ヲ二府ト號ス文獻通考云宋朝樞密院與中書對持文武二柄號為二府院在中書之北ト是ナリ
樞密使ト云モト唐ノ代宗ノ時ヨリハシメリテ宦者ノ官ナリ五代ノ時ハ宰相ノ任ト成リ宋ニイタリテ遂ニ中書省トサシ並ヒテ兩府ト稱スワノ後ニ武事ノミカキラス百官ヲ除授シ文史ヲ脩ス等大小ノ事ニアツカル大抵宋ノ時ニ三省アリトイヘトモ中書省モハノ事ヲ取サキテ樞密使ノ權サカナル故ニ兩府ト稱スナリ

○元ノ太祖ハ朝士ヨリオコリテツノカミ官制ノ設ナシ萬戸ヲ以テ軍旅ヲ統ヘ斷事官ヲ以テ政刑ヲ治メ任用スモノハ親貴ノ重臣一二人ニ過キズ世祖位ニ即クニ及ニテ大ニ制作ヲ新ニシ劉秉忠許衡等ニ命シテ内外ノ官制ヲ定メテ政務ヲ總シテ中書省ト云兵柄ヲ秉ルモノヲ樞密院ト云右ノワケ治平畧ニワケ大畧ヲアガ詳ニ云ス
○明ノ時ニモ三省ヲ立ラズ國初ニ暫ク中書省アリトイヘトモ

ヤカテ廢シテオカレス又唐宋ノ時六六部ヲ設ケテワノシマ
リ尚書省是ヲツカサドル明ニ六六部ヲ立ラレトモ尚書
省ナレ是等ノコト前代トコトナリ

○會典云國朝建官初置中書省設左右丞相等官
其屬有四部外治錢穀禮儀刑名營造之務洪武
元年始置吏戶禮兵刑工六部秩正三品設尚書
侍郎等官仍屬中書省十三年革中書省罷丞相
乃陞六部為正一品衙門自是中書之政分於六
部云々

▲六官九寺六部ハ省ノ事

○イニレヘヨリ司徒司空等ノ官アリテ舜典ニ見ハルツノ後
六卿アリ冢宰司徒宗伯司馬司寇司空ナリ冢宰ト云
ハ冢ハ大ト訓シ宰ハツカサドルト訓ス百官ヲ統ヘ掌ル意ナリ
宰相ノ任ナリ司徒ハ教官ナリ後ハ衆也ト注ス人氏ヲ掌サ
トリ天下ノ人ヲオシユルコトヲツカサトル宗伯ハ禮官ナリ宗廟祭
祀禮儀ノコトヲツカサトル司馬ハ武官ナリ軍旅兵馬ノコトヲ
ツカサトル司寇ハ刑官ナリ獄訟刑罰ノコトヲツカサトル司空ハ
工官ナリ水土ノコトヲツカサドル空孔也ト注スアナト云コトナリ

土ヲホリウガツヨリ名ヅクルナリ

○夏商ヨリコノカタ段々備リテ周禮ニコレヲ天地四時ニ配シテ
六官ト云天下ノ事コノ六官ニ分チ統テ天下治ル大冢宰
大司徒ハイヅモ卿ニシテ長官ナリツノ下ニ上大夫中大夫
下大夫上中下士属官三百六十官アリ周禮ニ詳ナリコレ禮

周 六 官 圖

- 天官 大冢宰
- 地官 大司徒
- 春官 大宗伯
- 夏官 大司馬
- 秋官 大司寇
- 冬官 大司空

○漢ノ時ニハ丞相一人天下ノ事ヲスヘ掌リテツノ下ニ九寺アリテ政事ヲマテ掌ル司馬温公ノ云西漢以丞相總百官而九卿分天下之事ト九卿トハ九寺ノ御ナリ周ノ時ノ九卿トコトナリ

○九寺ト云ハ太常光祿衛尉宗正太僕大理鴻臚司農太府ナリ太常ハ宗廟禮儀ノコトヲ掌ル光祿ハ宮殿掖門戸ヲ掌ル衛尉ハ宮門屯衛兵ヲ掌ル宗正ハ天子ノ御親屬ヲ掌ル太僕ハ輿馬ノコトヲ掌ル大理ハ本廷尉ト云刑獄ノコトヲ掌ル鴻臚ハ賓客禮儀ノ事ヲ

掌ル司曲辰ハ園囿米穀ノコトヲ掌ル太府ハ藏布等ノ事
ヲ掌ル是ヲ合セテ九寺ト云

漢九寺圖

- 太常寺
- 光祿寺
- 衛尉寺
- 宗正寺
- 太僕寺
- 大理寺
- 鴻臚寺
- 司農寺
- 太府寺

右ヲ漢ノ九寺トスツノ時周ノ六官ナキニ因テコノ九寺ヲ
以テ天下ノ事ヲ分チ治メテ宰相ノ下ニアリ
○前漢ノ時宰相ノ權重ク天子微弱ナルニヨリテ光武中

興ノ時ヨリ天子ニツカラ政事ヲ取行ヒタシテ尚書ハ天子
ノ近習ナルニヨリテツノ權次第ニオモク公卿位ニ具ルトイハ
モ稍ツノ職ヲ失フイハユニ三公備負事歸其臺閣ト云コノ事
ナリツノ時分前漢ノ尚書五曹ニ中都官ヲ並テ六曹ト
ス郎官三十六人アリツノ曹名ヲ詳ニセズツノ後名辨負
數少クカハリアレトモ大様後漢ノ制ニヨル北齊ノ時ニオヨ
テ前代ノ法ヲ損益シテ尚書六曹ヲ置テツノ下ニ郎官ニ
十八曹アリ隋ノ時ニ吏部民部禮部兵部刑部工部
ノ六尚書ヲ定メツノ下ニ郎官二十四司アリ曹トイフハ

官府ノ部屋ノコトナリ部ト云モ同キコトナリ 本朝ニモ曹
司ト云是ナリ唐オコリテ又是ニヨルレカレハ尚書ノ官ハ秦六
部ニリテ後漢ヨリ權重クコレヲ六曹ニ分ツコトハ北齊ニシ
リテ隋唐ニ備ハレリ

○唐ノ世階ノ制ニ因テ六部二十四司ヲオク六部トハ吏部
戸部禮部兵部刑部工部ナリ六部ノ下ニ各下役アリ各
四司合セテ二十四司ナリ六部コレヲ頭司ト云二十四司
コレヲ子司ト云六部ニ部ゴトニ尚書侍郎即負外郎アリ
二十四司ニ各郎中負外郎アリサテツノ職掌ハ吏

部ハ人オシ進退スルコトヲ掌ル吏ハ官吏ノコトナリ戸部
ハ百姓年貢等ノ事ヲ掌ル禮部ハ禮儀ヲ掌ル兵部
ハ軍旅武官ノ進退ヲ掌ル刑部ハ刑罰ノ事ヲ掌ル工
部ハ宮室器用並ニ水利ノ事ヲ掌ル是ヲ合セテ六部ト
云テ天下ノ事ヲ分理ス二十四司コレニ分屬ス後世唐
ノ六部ヲ周禮ノ六官ニ準シテ吏部ヲ天官大冢宰ト
云兵部ヲ百官大司馬ト云刑部ト云禮部ト云工部ト云
異同アリ先儒ステニ辨アリ戸部本ハ民部ト云唐時
太宗ノ諱世民ヲサケテ戸部ト云後世コレニ因ル

唐六部二十四司圖

吏部	戶部	禮部	兵部	刑部	工部
主爵	度支	祠部	儀制	庫部	都官
考功	倉部	主客	兵部	刑部	比部
司勳	戶部	金部	禮部	主客	兵部
主簿	度支	倉部	祠部	儀制	庫部
主簿	度支	倉部	祠部	儀制	庫部
主簿	度支	倉部	祠部	儀制	庫部

○唐ノ時九寺ノ設亦漢ノ制ノコトシ各卿少卿等ノ官アリテフノ事ヲ分理スソノ職掌小々異同アレドモ大略相同シ再ヒ舉ルニ及ハズ故ニコレヲ畧ス

○唐ノ時六部九寺ノ外ニ又五監アリ秘書監殿中監少府監將作監國子監ト云ソノ職掌具サニアクルニ及ハズ通典唐書ヲ考フベシ

○唐ノ時ニカクノコトク六部九寺五監ト同キコトヲ並ヒ設ケラルハ漢ノ時ニ九寺天下ノ事ヲ分管シテソノシニハ丞相是ヲ掌ルフノ後後漢已來尚書ノ権重キニヨリテソノ下役ノ曹司事ヲ取り行フテ勢アリ是六部ノ興亡エニナリ是ヨリ九寺ノ名アリトイヘトモ六部モハラ天下ノ事ヲ掌ル杜祁公奏議並ニ范蜀公ノ唐鑑ニコノ論具

サナリワノ大意ハ古ハ臯陶作士刑官一ツニイッ後ニ
 刑部尚書アリテ又大理卿アル時ハ二人ノ臯陶ナリ垂
 作共工工官一ツニイッ後ニ工部尚書アリテ又將作監
 アル時ハ二人ノ共工ナリツノ餘官職ニ重複アルコト何レモ
 ノワケナリ

本朝之制置ハ省分管諸司

本朝唐ノ六部ニ準レテハ省ヲ置ク 孝徳天皇大
 化五年二月制冠十九階是月詔博士高向玄理
 典釋僧是置ハ省百官ト國史ニ見ル玄理ハク口口ト

訓ス即イハユル小徳高向博士黒麻呂ト云モノナリ日本
 紀カ注ニ云黒麻呂更名玄理ト是ナリ

○天平宝字二年官跡改易ノ時ニ中務省ヲ改メテ信
 部省トス式部省ヲ改メテ文部省トス治部省ヲ改
 メテ禮部省トス民部省ヲ改メテ仁部省トス兵部
 省ヲ改メテ武部省トス刑部省ヲ改メテ義部省トス大
 藏省ヲ改メテ蔵部省トス宮内省ヲ改メテ智部省
 トス是ニテ 孝謙帝朝ニ臨ニテ惠美押勝等勅ヲ
 奉レテ改易スル所ナリ押勝事敗レテ悉ク舊跡ニ復ス

奧州壺、碑仁部省卿上六郎民部卿ノコトナリ

本

中務省

侍從

監物

内舍人

内記

中書省

中書

大舍人

典鑄

圖書省

圖書寮

内藏寮

縫殿寮

式部省

陰陽寮

内匠寮

画工寮

治部省

散位寮

内禮司

式部省

民部省

大學生寮

内禮司

禮部

諸陵寮

喪儀司

主計寮

玄蕃寮

式部省

分

兵部省

軍人司

兵馬司

造兵司

刑部省

判事

主計司

主鷹司

大藏省

典鑄司

織部司

漆部司

刑部

典鑄司

織部司

漆部司

諸

大藏省

典鑄司

織部司

漆部司

宮内省

大膳殿

木工寮

大炊寮

殿中

正親司

内膳司

掃部寮

大府寺

正親司

内膳司

造酒司

圖

省	主油司	内掃部司	菅陶司	内添司	土工司	采女司	主水司
---	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----

右ノ諸司令ニノスル所ト職原ニノスル所トヤ々記載アリ
又併省多シ各本書ヲ考フヘシ

○唐ノ時三省六部九寺五監アリテ天下ノ事ヲ分理
ス 本朝ノ官制モハラ唐ノ制ニヨリテ損益升降ス三
省ヲオカズタ、太政ノ一官ニテ萬機ノ政ヲ統ヘハ省
ヲ六部ニ準シ諸司ヲ二十四司ニ準ス中書ハ唐ヲ
ハ尚書ト相並テ三省ノ内ナリ 本朝コレヲ降シテハ
省ノ首ニ列ス大藏省ハ太府寺ニ當ル唐ニ在リテハ

九寺ノ内ナリ 本朝コレヲハ省ニ列スワノ餘五監九
寺ヲ損益シテ諸司トシハ省ニ屬ス 先王ノ稽古制
ヲ定メタコトヲノ意ニルヘシ

○凡ハ省各卿大輔少輔大丞少丞大録少録ノ四
等ノ官アリ 諸司職ニ大夫亮進屬ノ四等寮ニハ
頭助允屬ノ四等アリテカニスケセウサクハンニアタル司
正佑令史ニ等ナリ

○宋已来元明ニイタルテ六部九寺五監ノワケ大畧唐ノコト
二十四司ノ名小々コトナルコトアレモ繁細ナハ具サニアゲス

制度通

卷三

三

○明ノ時ニ二十四司ヲイツレモ清吏司ト云タトハ唐宋ノ時ニ主客郎中トイフガコトキ明ノ時ニ主客清吏司郎中トイフ餘ノ諸司イツレモコノ通りナリ

明	吏部	文選司 稽勲司 十三司	驗封司 考功司
六	戶部		
部	禮部	儀制司 主客司 精膳司	祠祭司
子	兵部	武選司 車駕司 十三司	職方司 武庫司
部	刑部		
圖	工部	營繕司 田司	虞衡司 都水司

▲後宮官ノ事

○古ハ天子ニ三公九卿二十七大夫八十一ノ元士アリテ外ヲオサメ后ニ六宮アリテニ夫人九嬪二十七世婦ハ十一ノ御女アリテ内治ヲ聽ク 禮記王制篇並ニ昏義ニ見ル鄭玄ノ說ニ是ヲ周ノ制トイヘリ

○古ハ男女ノ官アルモノヲ命夫命婦ト云命婦ニ内命婦外命婦ノ差別アリ凡婦人ノ宮中ニ官シテ官位アルモノヲ内命婦ト云官人ノ妻官位ヲ賜フモノヲ外命婦ト云ソレユヘニ官人ヲ命夫ト云ニトリ合セテ命夫命

婦上云周時ノ禮書ニ多ク見ハル

○秦漢已來婦人ニ六ジメテ封君ノ號アリ漢ノ景帝ノ

王皇后ノ母ヲ平原君トシ後漢ノ梁冀力妻孫壽ヲ

襄城君トスルノ類多シイツレモ封邑アリ

○漢ノ時始テ女官アリ美人ヨリ中家人子ニテ二十一

階アリ百官ニ準スレハ二千石ヨリ斗食ニテ比ス太子ニ

モ妣良娣孺子妻妾スヘテ三等アリイツレモ位階

ニテ職名ニアラズワ後三國晉南北朝世沿華アリ

漢 昭儀 婕妤 美娥

女 俗華 美人 八子

官 充依 七子 良人

十 長使 少使 五官

四 順常 無涓 共和

等 娛靈 保林 良子

圖 夜者 上家人子 中家人子

○唐ノ時女官ノ次第前代ノ制ヲトリテ增損ス内命婦

貴妃ヨリ采女ニテ凡テ十六等外命婦大長公主

ヨリ御君ニテ凡テ十一等ナリ六典ニヨリテ圖ヲイラス

唐 貴妣 淑妣 德妣 賢妣 並為夫人

內 昭儀 昭容 昭媛

命 充儀 充容 充媛 並為嬪

婦 婕妤 美人 九負

制 才人 寶林 正四品

圖 御女 采女 正六品

唐 大長公主 皇姑 長公主 皇嬪 皇妹

外 公主 皆視正一品

命 郡王 皇太子之子女 縣主 王之女 視正二品

婦 妣 王 母 妻 國夫人 一品 國公 母 妻

制 郡夫人 三品 以上 郡君 四品 以上 若 勳官 二

圖 縣君 五品 以上 若 勳官 鄉君 勳官 四品 以上

右 妃 已 下 母 上 何 太 字 加 某 太 妃 某 夫

人 上 云 カ 子 皇 太 子 ノ 宮 王 命 婦 ノ 次 第 ア リ 又 丙

官 宮 官 ア リ 事 シ ゲ 之 ラ 畧 ス

本 朝 之 制 後 宮 有 妃 二 負 夫 人 三 負 嬪 四 負 宮

人 有 內 侍 司 等 十 二 司 又 有 中 宮 職 掌 後 宮 事 其

官 如 春 宮 坊

○本朝妃嬪ノ取ツル未ト久シ令ニラムトコロノ改第カクコト
シ内侍司以下藏司書司藥司兵司關司取司掃司水
司膳司酒司縫司凡十二司アリ内侍司ニ尚侍典侍掌侍
ニ等アリ以下ノ諸司此ニ準シテ差アリイモ女孺或ハ采女
若干人アリテ之ニ属ス采女ハ令ヲ梅スルニ古郡ノ少領以
上ノ姉妹並ニ子ヲ選ヒテコレヲ中務省ニ申シテ奏聞ス諸
國ヨリ之ヲ進ムルコトヲ掌シ司ヲ采女司ト云コノ外又上臈
小上臈中臈下臈得選乃自等ノ名アリ禁秘御鈔並ニ
職原追加等ニ詳ナリ事レダ六見サニノセズ

本朝後宮品負圖

- 妃 二負
 - 夫人 三負
 - 嬪 四負
 - 宮人
- 四位以上
五位以上
- 義解云婦人仕官者之總稱也

○宋ノ命婦太祖ノハシメ五代ノ制ニヨリテ司簿司賓ヲオク並
ニ封縣君太宗ノ時ニ尚宮太監及知内省充宣徽南院使
等ヲオキ或ハ國夫人郡夫人ニ封ス又宝省尚食ヲオキ縣君ニ
封ス司宝司儀司給ヲ置キ郡君縣君ヲ授ク真宗ノ時至
リ淋容順容嬪儀嬪容ヲオク並ニ後一品昭儀ノ上ナリ又

貴儀ヲ置テ淋儀ノ上ニアリ又司宮令ヲオク正四品尚宮ノ
上ニアリト文獻通考ニ詳ナリ

○遼金ノ命婦ノ資品考ゴトナシテ正一品國夫人ヨリ
正七品宜人ニテ七階アリ明ノ時一品ヨリ七品ニテアリ父没シ
母存スル太ノ字ヲ加フルナリイツモ續通考ニ詳ナリ

明命婦七階圖

- 一品夫人
- 二品夫人
- 三品淑人
- 四品恭人
- 五品宜人
- 六品安人
- 七品孺人

▲東宮官屬ノ事

○東宮ノ稱春秋ノ時ヨリ見ハル詩ノ衛風碩人ノ詩ニ齊侯
之妻東宮之妹トアリ左傳ニ齊東宮得臣之妹也トイハリ
ツノカニ諸侯ノ太子ヲ東宮トイフコトナリ後世コレニヨリテ天
子ノ太子ヲ東宮ト云太子ノ宮公宮ノ東ニ在ルニヨリテナリ

○古ハ太子世子ノコトバ天子諸侯ニ通用ス春秋ニ周ノ天王ノ嗣子
ヲ王世子トイヘリ又鄭世子楚世子トイフ漢ノ時ハ天子諸侯ニ
通シテ太子ト云レヨリ後ハ天子ニ太子ト云諸侯ニ世子ト
云名カ各別ナリ

○太子ニ師保二傳アルコトハ殷周ノ時ヨリステニ是アリ漢ノ時ニ
 太傅少傅アリクノ後世々沿革アリテ後魏北齊隋唐ノ時ニ
 ハ何レモ三師三少ヲ置ク是ヲ六傳ト云唐ハ何レモ天子ノ三分
 コトク則闕官ナリ通考云唐六傳不_レ及_レ備唯其人ヲスト是ナ
 ○秦漢已後師傳ノ外ニ詹事ヲ加_レオク隋ニ至_リテ詹事ヲヤ
 テ門下坊典書坊ヲ置テ諸司ヲ分統ス典書坊ハ北齊ノ時
 リコレアリ

○唐ノ時又詹事府ヲ置テ衆務ヲ統_ル又門下坊ヲ改テ左春
 坊トシ典書坊ヲ改テ右春坊トシテ諸司ヲ領_ル庶子中允等
 ノ官前代ノ制ニヨリテ此ヲ置ク是ハ東宮ノ官屬ニ朝廷ノ三省
 ニ準_シテ詹事府ハ尚書省ニタリ左春坊ハ門下省中書
 省ニタリ朱子語類ニ云唐六典載太子東宮官制
 甚詳如一小朝廷置詹事以統衆務則猶朝廷之尚
 書也置左右二春坊以領衆局則猶朝廷之中書
 門下也ト云々コノ外賓客洗馬度子文學等ノ官品タリ
 又左右衛率府アリテ宿衛ヲツカサドルコトハ武備ノ官ナリ

唐	太子太師
太	太子太傅

子 太子太保

是為東宮三太

六 太子少師

太子少傅

太子少保

是為東宮三少

圖 傳 六 子

東宮師傅ノ官晉及後魏ノ時ニテ六傳ヲ設クテ後増減アリテ唐モソノ法ヲ用ヒテ損益アリ

本朝之制 東宮有傳學士 置春宮坊

○東宮ハ太子ヲ云春ハ東方ノ象ナルニヨリテ又春宮トモ云同キコトナリソノ内傳學士ハ東宮傳東宮學士ト書テ春

宮トカクコトナシ國史ノ表序等ニ直ニ皇太子傳 皇太子

學士トカキタル義アリ唐朝ニテ太子太傅少傅ト云カコト

ニ天子ヨリノ御ツケ人ナリ大夫亮進等ノ官人ハ必春

宮大夫春宮亮トカキテ東宮トカクコトナシ是ヲ坊官ト云

唐ノ左春坊右春坊ニ準シテ春宮坊ト名ツケラレタル

ヘナリ職原抄ニ云東宮春宮是一也然而傳學士此

為東宮官大夫以下為坊官古未如期トツノ差別

ヲシルベシ

制度通卷三畢

制度通卷四

伊藤長胤

輯

▲官秩位階正從ノ事

○古ノ諸侯ニ五等ノ爵アリテ公侯伯子男ト云又天子諸侯ノ臣卿大夫士ニテニ通シテ一命ヨリ九命ニテノ次第アリテ貴賤尊卑ノ差等ヲカフ後世位階ノ始リナリ初ノニスムヲ一命トシテ一命ノ士ト云段々ニ經アガリテ九命ヲ至極トス上公九命ト云是ナリ秦漢以來ハコノ法ナシ周禮ニ詳シ

周九命圖

- 九命 上公 作伯
- 八命 作牧
- 七命 賜國
- 六命 賜官
- 五命 賜則
- 四命 受器
- 三命 受位
- 再命 受服
- 一命 受職

○秦ノ時爵二十等ヲ置キ徹侯ヨリ公士ニ至ル土地ヲアタエズ
 只貴賤ノ次第ヲ分ツバカリナリ徹侯ト云ハ徹ハ通也ト訓シ
 テ爵位上通於天子ト註アリ手漢武帝ノ諱徹ヲサケテ通
 侯ト云又關内侯ト云ハ侯蹄アツテ居京畿國邑ナシト漢
 書ニ具サナリ自餘詳ニスルニ及ハズ

秦十二級圖

- | | | | |
|-----|-----|-----|------|
| 徹侯 | 關内侯 | 大庶長 | 駟車庶長 |
| 大上造 | 少上造 | 右更 | 中更 |
| 左更 | 右庶長 | 左庶長 | 五大夫 |
| 公乘 | 公大夫 | 官大夫 | 大夫 |
| 不更 | 簪鼻 | 上造 | 公士 |

○漢ノ時秦ノ二十等ノ爵ヲ用ユレトモ功勞ヲ賞シテ恒ニオ
 カレス百官ノ次第ハ祿秩ノ多少ニヨリテ中二千石ヨリ百石
 ニテ十四等アリ丞相大尉等並ニ諸將軍又諸侯國ニ

仕ル國官ハコノ外ナリ後漢モツノ通りニテ少々増減アリ史漢ノ内ニ吏二千石ト云其祿數ヲ呼テ直ニ官ノ称トスルナリ

漢	中二千石	比二千石	比千石	比六百石	比四百石	比三百石	比二百石
	月各百斛	百斛	八十斛	六十斛	四十斛	三十斛	二十斛
	二千石	千石	六百石	四百石	三百石	二百石	百石
	百二十斛	九十斛	七十斛	五十斛	四十斛	三十斛	二十斛
				大夫	中大夫	中更	車府

○三國魏ノ時黃鉞大將軍ヨリ以下令史等ノ賤職ニテ

九段ニワリテ第一品第二品ト云第九品ニテ極ニソノ後
 晉宋ノ二代ハ三國ノ制ニ從テヤ、治革アリ梁ノ時官
 秩ノ品前代ノ如クニレテ丞相ヨリ以下典書令ニテヲ十
 八段ニワリテ品ヲ改メテ班ト云其内一班ヲハントシテ十
 八班ヲ極官トス周ノ九命ノゴトクニ班數ノ多キヲ貴トス
 丞相大宰等ノ官皆十八班ノ官ナリ陳ノ時モ梁ノ制
 ニ從フ然レトモ又通典ニ第一品ト立テ第九品ニテアリ
 テ又十八班トストイヘリ十八班ト九品トヲ通用スト見ヘタリ

○北魏ノ時又九品ニ分テ每品ニ從品アリ四品以下正從ト
 モニ又カテ上下階トス凡三十階ナリ唐ノ官品是ヨリ出ツ
 然ルモ第一品從一品第二品從二品ト云テ正一品正二
 品ト云コトナシ北齊ノ時ニ至リテ全ク魏ノ制ヲ用ヒテ正一
 品從一品ト云コト唐以來ノ法コレニ本ツク官品ニ正從ヲ
 ワカシコト是ニハシル北周ノ時ハ古ヘ姬周ノ法ヲ追テ九等
 ニワリテ九命ト云毎一命ヲ二階ニ分テ正九命九命ヨリ
 以下正一命一命ニテ凡十八階アリ正朝官ニ内命ト云
 諸侯州縣官ヲ外命トス

○隋唐ノ時專北齊ノ制ニヨリテ正一品ヨリ從九品ニテ凡
 十階アリ是ヲ流内ト云又視流内流外勳品視流
 外等ノ品アリ其内隋唐以前ハ品命ノ別アリトイヘトモ
 百官ノ次第ヲ立タルカリニテ別ニ官ノ名ヲ立ツルコトナシ
 隋以來ハ別ニ官號ヲ定メテ位階ヲ分ツナリ
 通シテコレヲ見ルニ官ニ品ト云コトハ曹魏ノ時ヨリ起ル品
 從アルコトハ北魏ノ時ハジレリテコノ時ニ三十階ヲ分ツ從
 ニ正ヲ合セテ正一品從一品ト云コトハ北齊ノ世ヨリハシ
 リテ隋唐以來コノ法ヲ承用ユ宋ノ岳珂愧詒錄ニ

云官也。有品自曹魏始。品之有從乃自之魏始。是ナリ。

○散官ノ名隋ノ世ニオコリテ唐ニ備ハル然レトモ隋ノ時散官云ハ正一品最貴キユニ虚ノオカス九品ノ内何レモ散官アリテ百官ノ勞ニ酬ユ虚名ノ官職ニテ位階ノ名ニアラス

○古ハ散官ト云コトナシ隋唐以來コレアリ文官ノ位階ヲ散官ト云武官ノ位階ヲ武散官ト云散トハモト散木散人ノ散ノ如ク物ノ役ニ立サレトナリ官職ニテハサノニ肝要ノイワカハレキ役目ニテモナキテ散官ト云韓文

ニイハユル投間置散乃分之宜ト即ソノ事ナリ隋書百官志ニ曰居曹有職務者為執事官無職務者為散官ト又散實官散號官散號將軍ノ名アリ文獻通考ニ云散官之名肇見於此曰當時之仕于朝者不任以事則置之散正如今日宮觀設官之比ト本トナル官職ヲ散官ト云後世遂ニ位階ノ名トナル

○唐ノ世ニイタリテ特進以下將仕郎ニテ二十九階ヲ建テ是ヲ文散官ト云又驃騎大將軍ヨリ陪戎副尉ニテ二十九階ヲ建テ是ヲ武散官ト云イツモ官職ノ外ニ

美名ヲ設テ位階ノ尊卑ヲ差別スルナリ愧郊録ニ委
シク論アリ其說ニ云前世合於一而唐則析為二十是ナリ

唐		文		武		散		官	
正一品	從一品	正一品	從一品	正一品	從一品	正一品	從一品	正一品	從一品
正二品	從二品	正二品	從二品	正二品	從二品	正二品	從二品	正二品	從二品
正三品	從三品	正三品	從三品	正三品	從三品	正三品	從三品	正三品	從三品
正四品	從四品	正四品	從四品	正四品	從四品	正四品	從四品	正四品	從四品
正五品	從五品	正五品	從五品	正五品	從五品	正五品	從五品	正五品	從五品
正六品	從六品	正六品	從六品	正六品	從六品	正六品	從六品	正六品	從六品
正七品	從七品	正七品	從七品	正七品	從七品	正七品	從七品	正七品	從七品
正八品	從八品	正八品	從八品	正八品	從八品	正八品	從八品	正八品	從八品
正九品	從九品	正九品	從九品	正九品	從九品	正九品	從九品	正九品	從九品

右イハレモ文官ニ特進開府等ノ名アリ武官ニ將軍校尉等ノ名アリ事イタツカワレキユヘニコレヲ舉ケス書官

鈔ニ之ヲ詳ニス

本朝之制親王稱品凡四階諸王諸臣稱位凡三

十階官曰任位曰叙唯正一位虛而不授不別置散

官名

○今義解云品位也親王稱品者別於諸王

推古天皇時ニハジテ大德冠已下ノ冠位十二階ヲ行フ

孝德天皇ノ時ニ大織冠已下七色十三階ノ冠位ニ改メラル

コノ後又大織已下十九階ニ改ノラル

○天智天皇ノ時ニ増シテ大織小織ヨリ以下大建小建ニテ
二十六階ヲ定メラル 天武天皇ノ時ニイタリテ爵位六十階
ヲ改メ定メテ明大一ヨリ淨廣四ニテ十二階ヲ諸王ノ位トス
正大一ヨリ進廣四ニテ四十八階ヲ諸臣ノ位トス

○文武天皇ノ大寶元年ニ明冠四階ヲ親王ノ位トシテ一品
ヨリ四品ニ至ル淨冠十四階ヲ諸王ノ位トシテ正一位ヨリ從
五位ニイタル直冠ヨリ進冠ニテ三十階ヲ諸臣ノ位トシテ正
一位ヨリ少初位下ニ至ルスヘテ四十八階ナリ是ヨリ前ハカクハ

位階ニ隨テ冠ヲ賜フコノ時ニ罷ラレテ位記ヲ給ヒ又服制ヲ
定メラル又外位二十階アリテ直冠ヨリ進冠ニテ六段ヲ正
從上下ニ分テ外正五位ヨリ外少初位ニイタル其後令マラ
定メラル時ニイタリテハコノ制ニ從ヒ親王四品諸王諸臣二十
階上ニアグル制ノ如シ冠位ノコトニタミアズ右ノ事シケンハコ
處ニアラハサズ官制沿革ニ之ヲ詳ニス

○又大寶年中ニ令ヲ定メテ官位令ニスル所親王一品ヨリ
四品ニテ凡テ四階諸王諸臣正一位ヨリ少初位下ニテ凡テ三
十階コレヨリ以後歷朝承用ヒラレテ沿革ナシ

本朝親王四階圖

一品

二品

三品

四品

正一位

從一位

正二位

從二位

正三位

從三位

王

正四位上

正四位下

諸

從四位上

從四位下

正五位上

正五位下

從五位上

從五位下

正六位上

正六位下

從六位上

從六位下

正七位上

正七位下

從七位上

從七位下

正八位上

正八位下

階

從八位上

從八位下

圖

大初位上

大初位下

少初位上

少初位下

○宋ノ時文資四十階武資五十九階元ノ時文資四十二階武資三十四階大抵唐ノ制ニ因テ正從九品ノ差アリ官號ハ少ク沿革アレドモ大ニ異ナルコトナシ文資武資ト云ハ文散官武散官ノトナリ

○明ノ時ノ散官又唐宋已來ノ通りニテ文散官ハ正一品榮祿大夫ヨリ從九品登仕佐郎ニテ九等十八級武散官ハ正一品榮祿大夫ヨリ從六品忠武校尉ニテ六等十二級アリ但上下ノ別ナシ詳ナルコトハ皇明官制圖ニコレヲアテハス

○周時内外官六萬三千六百七十五人内二千六百四十三人外諸侯國官六萬一千三十二人又内職女職一萬五千九百五十人都計内外官及内職掌人七萬九千六百二十五人ヨリ、文獻通考ノ内周禮ニヨリテツモリタルモノナリ大抵天子ノ官七萬餘人諸國ノ官六萬餘人都合シテカクノ如シ輕キ役人ニテヲ合セテ之ヲ數フルナリ

○漢書百官公卿表云吏負自佐史至丞相十三萬二百八十五人

○圖書編三卷云臣博考前古若光武中興監前世官冗之弊裁省天下四百州縣官止七千五百餘負額數極少者也唐制文武官一萬八千餘負額數極多者也我朝自成化五年武職已逾八萬合文職計之蓋已逾十萬矣是職負極冗未有甚於此時者也

▲兼行守試ノ事

○官ニ兼官アルトヒサニ論語ニ管仲官事不攝トイフ攝ハ兼官ノコトナリ又行ト云守ト云コト漢ノ時カヨリモ三五ノ漢ノ韓安國為御史大夫行尚書事後漢ノ周澤行司徒事ト通典ニ是ヲ引テ例トス又漢ニ守令守郡アリ謂秩未當得而越授之故曰守ト事物紀原ニ是ヲ舉テ猶今ノ權ノト云○唐ノ則天武后ノ時ニ人情ヲ收メシガタメニ大ニ試官ヲ置天下ノ舉人ヲ官セラル試官ノ時ニオコレリ通典云試者未為正命凡正官皆稱行守其階高而官卑者稱行

階卑而官高者稱守官階同者並無行守字事物
紀原ニオモヘラク是ヲ試ト云ハ書經ノ明試以功ト云ノ意ニトナリ

兼行守試圖

兼	任二兩官者一
兼	為正餘為兼
行	高階卑官
守	卑階高官
試	未為正命

其後中宗ノ神龍ノ初ヨリ負外檢校試知攝判等ノ名アリ
玄宗開元ノ時ニ及ニテコレヲ刊定セラレ然レモ行守ノ事ハ後ニ
モカハルコトナレ

本朝之制凡任兩官以上者一為正餘皆為兼○凡任
内外之武官本位有高低者若職事卑為行高為守
○本朝官位兼行守ノコト又唐ノ法ニ本ツク位階卑レテ官高キ
トキハ守トカク從三位守大納言トイフカ如シ大納言相當從二
位ナリ位階高レテ官卑キ時ハ行トカク正三位行大納言ト云
如レコノニツハ位ト官ト高下アリ共ニ位ヲ先ハ書テ官ヲアトシ
スモレ官位相當ノ時ハ行守ノ字ヲ用ヒス大納言從二位ト必官
ヲ先ハレスナリ諸官何レモ同キコトナリ今並ニ拾芥抄ナトニ詳ナリ
○宋ノ時モ又行守試ノ別アリ文獻通考云凡除職事官以寄祿

官品之高下為準、高一品以上為行、下一品為中、下二品已下為
試品、同者否、又領視ト云コトアリ、又云宣和以後官高而仍舊職
者、謂之領官、卑而職高者、謂之視、ト何レモ行守ト同キコトナリ

○明ノ時行守ノ事ナシ、官位ヲ署スルニ必位ヲ先ニ書テ、官ヲ後ニ
注スルナリ、翰林院ノ官バカリ官ヲ先ニ書テ、立テ後ニ注スナリ
四書大全ノ首連名ノ亦ニテ、ミルヘシ、但シ兼官ハ昔ノ通りナリ、
史料云、文臣署官、俱書散階於職銜之上、唯翰林書於下、
或云始自文皇時、不然也、觀遼金史、如元時亦然、

▲功臣號並ニ賜ノ事

○功臣號ト云コトハ、モト唐ノ德宗ノ時ヨリ起ル、ソノ時朱泚トイフモ
ノ亂ヲナシテ、長安ヘイル帝コレヲ避ケテ奉天ト云所ヘ遷幸ス
其時多シ百官ノ乘輿ニ供奉スルモノヲ亂シツル後ニ奉天定
難功臣ト云名ヲ賜フコトヲ、功臣號ト云コトヨリ後功アルモノニ
コトクク賜ヘリ、遂ニ例トナル

○宋モ唐ノ制ニヨリテ、功臣號アリ、宰相樞密使ニハ、初テ拜セ、
ニヨリ賜フ、參知政事、樞密副使ニハ、加恩ノ時ニ是ヲ賜、刺
文已上勲高キモノニモ、時ニヨリテ賜ル、宰相初テ加フルニ、六字

ソノ餘ノ官ハ並ニ四ノ字段クニ重子カフルトアリ或ハ二字或ハ四字多キモノハ十餘ノ字ニ至ル何レモ二字ツク義ヲ協ヘテ新ニ作ルモアリ舊號ニヨルモアリ美稱ヲ取ルトナリ徐度却掃編沈存中^カ筆談ニ詳ナリ

○明ノ初ノ太祖ノ洪武十三年ニ功臣封號ノ名ヲ定メラレテ開國輔運推誠宣力武臣トス又二十六年ニ開國輔運守正文臣ノ類ノ如キ特ニ聖旨ヲ奉ズルニアラサレハアタヘズ成祖ノ時ニ功臣封號ヲ定メラル四種アリ

明 奉天靖難推誠宣力武臣

奉天靖難推誠宣力

奉天靖難推誠宣力武臣

功臣封號四種

欽承祖業推誠奉義

古ノ通り人ニヨリテアタヘラルスベテ唐宋ノ時ニハ人ニヨリテ其文字同シカラズ或ハアラタニ製セラルル明ニハカクノ如ク三四通りノ封號ヲ定メ置テ此ヲアタヘラルナリ會典

吏部ノ内驗封司ノ職ニ詳ナリ

○又賜ト云コトアリ劍履上殿入朝不趨贊拜不名金魚袋緋魚袋ト五等アリコトハ日本ニテ貴官ノ衣服器物ノ類ニ何ヲ御用ニシト云カコトシ又朝廷ニテ牛車輦車隨身兵仗ナト宣旨アルガコトシ凡テ中國後世ハ禮文盛ニシテ實用スクシユヘニサシクノ虚名繁文ヲコレラヘテ賞罰ヲ高スルコト多シ官階勲號ノ繁瑣ナルコトコレニテシルベシ

奉天以重卦始宣代

▲官職四等四分ノ事

○官職四等ニハカツコト古ノ法制見アタラズ唐ノ時ニ大少ノ諸官上官ヨリ下官ニテ幾人アリテモ長ヲ四段ニワカツタトヘハ大理寺ナレハ大御ヲ長官トシ少御並ニ正ヲ通判官トシ丞ヲ判官トシ府史ヲ主典トスルカゴトシ他ノ官司イツレモ同シキコトナリフノワケ唐律ニ詳ナリ本后職ノ入過失アルトキニコノ段々ヲ以テ其過ノ輕重ヲ分ツタナリ文ヲ下ニアグ

○唐律第五卷名例律云諸同職犯公坐者長官為

一等通判官為一等判官為一等主典為一等各
 以所由為首○疏議曰同職者謂連署之官公坐
 謂無私曲假如大理寺斷事有違即大卿是長官
 少卿及正是通判官丞是判官府史是主典是為
 四等各以所由為首者若主典檢請有失即主典
 為首丞為第二從少卿二正為第三從大卿為第
 四從即主簿錄事亦為第四從若由丞判斷有失
 以丞為首少卿二正為第二從大卿為第三從主
 典為第四從主簿錄事當同第四從

○唐律又云即無四等官者止準見官為準○疏議
 曰即無等官者為關成之類無通判官關丞即至
 關令并主典唯有三等十是關所設人令丞主典
 ニテカニセウサクワニバカリアリテスケナシ

唐官四等圖

長官
 通判官
 判官
 主典

本朝之制 凡官四、方有長官、官有次官、官有判官、官有主典

○本朝ノ制全ク唐ニ從ヒテ太政官已下省臺職察府國郡

ニイタルニテ何モ四分當アリ文字ハカハレトモカニスケセウヤク

ワント讀ム局ヨリテハ直ニ長官次官判官主典ヲ以テ官ノ

稱トス鑄錢司勅解由使ノゴトキ是ナリ源順ノ和名鈔ニ

スル所ニ考フヘシ又官ヨリテタ、ニカニテ四分ナキアリ 諸司諸署

並ニ内膳司鎮守府ニタカミセウサノワレアリテスケナシ是モ唐ノ制也

本 長官 次官 判官 主典
伯神祇 副 祐 史

圖	當	配	分	朝				
長官	正	守	尹	頭	大夫	卿	輔	丞
司使	諸司	國	臺	諸寮	職	八省		
次官								
判官	佑	介	彌	助	亮			
主典	令史	掾	忠	允	進			
			志	屬	屬			
		目	疏	屬	屬			

○明ノ制又カクノ如シ毎官四等ニカチテ長官佐貳官首領
 官吏典ト云 本朝ノカミスケセウサクワレナリ大明律官
 司出入人罪條ニ云若斷罪失於入者各減三等失
 於出者各減五等並以吏典為首首領官減吏典
 一等佐貳官減首領官一等長官減佐貳官一等
 科罪ト是ナリコノワケ唐律ニノスルト同キコトナリアハセ
 考スベシ

▲詔勅制誥並ニ位記等ノ事

○古ハ三代ノ時ハ天子ノミコトヲ通シテ命トイフ書經ニ
 ス詔命畢命ノ如キ是ナリ又誓アリ誥アリ同ク王ニ享
 リ共ニ書經ニ見ハル

○秦ノ始皇天下ヲ一統スルニイタリテ命ヲ改メテ制ト云令
 ヲ改メテ詔ト云是ヨリ詔ノ名オコル漢ヨリユノカタ後世ニ至
 ルニテ其通リナリ命ト令トノ差別ハ大ヲ命ト云小ヲ令ト云
 文體明辨ニ字書ヲ引テカク云リ秦ノ時制詔ト改メラセ
 モコレニ準スベシ

○漢以來又策書アリクノ時命令ノ體四ツアリソノ一ヲ策書ト云木簡ニ篆字ニテコレヲ書ス諸侯王ニ命シ三公ヲ誅シ諡シ或ハ三公ヲ免セラレコレヲ用ユコレヲ策免ト云唐ニ至リテ王言ノ體六ツ其三ヲ冊ト云コレヨリ始テ冊ノ字ニ書ク天地ヲ祀リ皇后太子ヲ立クニ之ヲ用ユクノ日凡十一品アリ冊字カレヅクト別ス視冊玉冊立冊封冊哀冊贈冊論冊贈諡冊祭冊賜冊免冊ナリソノ又文體明辨真字

○三國魏晉ノ時ヨリ又制詔勅ノ差別アリ又聖旨ト稱ス格ニ要論王佐曰魏晉天子稱聖旨又曰大事別有

制可直布則有詔書除授則有勅命非古制也

○唐ノ時詔冊制勅ノ別アリ詔冊制ノ三ツハ上ニ之ヲ詳ニス勅ハ唐ノ時大賞罰大除授ニコレヲ用ユ勅ハ漢ノ時戒書ト云即戒勅ナリ然レトモ勅ノ名ニハズ其後勅ノ名オコリテ唐ニ至リテ勅旨勅書勅牒等ノ差アリテ勅ノ用モトモヒロン何レモ事ノ品ニヨリテ其差アリ逐一ニ具シガタシソノ内大事ニ詔ヲ用ユ即位改元詔ノ如キ是ナリ冊制勅ハ封拜除授ニ是ヲ用ユ勅ハ又諸事ニ通スルコトナリ

○勅ノ名唐已前ヨリコレアリトイヘトモ唐ニイタリテソノ事ダ

三ツリ事物紀原ニ云漢初定儀則四品其四曰或勅令勅
 是也自此帝王命令始稱勅至唐顯慶中始云不
 經鳳閣鸞臺不得稱勅勅之名遂定於此ト云々鳳
 閣鸞臺中書省門下省ノコトナリ勅ハ必コノ二省ヲ經
 ルコトナリ又勅ニ黃勅ト云コトアリ是モ唐ヨリ始ル高宗ト
 云三年ニ詔アリテ制勅白紙ハ蟲蛀ユヘニ黃紙ヲ用ユ是
 ヲリテ黃勅ト云宋モ是ニヨリ又黃麻トモイフ勅書ヲ黃麻
 紙ニ書クニヨリテナリ東觀漢紀ニ云蔡倫作紙用故麻名
 麻紙事物紀原ニコレヲ引ク麻ニテコレニスル紙ナリ

○三國以來ノ詔勅ニハソノ發端カナラス門下ノニ字アリ其ト
 手門下省ヨリ詔命ヲ出シタルコトナリ通鑑梁武帝紀ニ
 魏節閔帝自作赦文直言門下胡三省ノ註ニ云魏晉
 以來出命皆由門下省故其發端必曰勅門下是ナリ
 ○通典選舉部云梁制云々其別發詔除者即宣付
 詔局詔局草奏聞勅可黃紙寫出門下門下答詔
 請付外施行又書可付選司行名得官者不必皆
 行名到但聞詔出明日即入謝後詣尚書上省拜
 受若拜王公則臨軒ト唐宋ノ式又此ニヨリ本ヅク

○法苑珠林 五十二卷 隋ノ時ノ勅アリ門下云々王者施行
仁壽元年六月十三日 内史令豫章王臣曠宣トア
リ隋ノ法前代ニヨリテカクノ如ク門下ノ二字アルコトナリ内
史令ハ唐ノ中書令ナリ宣内史令ヨリ宣フコトモ舊例ニ
リテ門下トヒスト見ヘタリ唐ノ法モ又是ニヨル

○唐ノ詔勅ノ首ニ必門下ト云隋ノ如シ陸宣公集等ノ諸
書ニ具サナリ處ニヨリテ東臺トアリ又麟臺トアルコトハ高
宗ノ時ニ門下ヲ改メテ東臺トシ武后ノ時ニ改メテ麟臺ト
セラルニヨリテナリ

○又唐ノ世勅ニ黃麻白麻ノ別アリ是ヲ内制外制ト云唐ノ
ハシメニ文書詔令皆中書舍人長ヲ掌ル太宗ノ時分ニ時
ノ名儒ヲシテ制ヲ草セシム玄宗ノ世ニ翰林學士ヲ置テ專
ラ内命ヲ掌ラシム白紙ニヨリテ書スニヨリテ是ヲ白麻ト云文
獻通考ニ云開元二十六年改翰林供奉為學士專掌
内命凡拜免將相弼令征伐皆用白麻ト是ナリ然ハ
中書ヨリ出ル勅ヲ黃麻ト云翰林ヨリ出ル勅ヲ白麻ト云通
考學士ノ下ニ又云故事中書以黃白二麻為綸命輕
重ト云々又云白麻皆在此院ト然ハ黃白トモニモトハ中

書ヨリ出テ、其後白麻モハラ翰林ヨリ出ルト見ヘタリ是ヨ
リテ翰林ヨリイヅル内制ト云中書ヨリ出ラ外制ト云是
ヲ合セテ兩制トイフ

○唐詔勅之式

唐ノ告身ノシタノ様六典通典等ニモ三ヘズ宋ノ時ニイタ
リ兵亂以後亡失シテ傳ハラズ葉夢得建康ニテ唐ノ
告身ヲ見ルコトヲ得其式ヲ避暑錄話ニノセリ今ヲ文
ニヨリテ式ヲアラハヌコト左ノ如シ
趙州刺史李暹

右可汾州刺史

門下
主者施行

開元二十年七月六日下

銀青光祿大夫守兵部尚書兼中書令集賢殿學士蕭嵩宣

中書侍郎

知制誥王丘

右ハ中書省ノ官人ナリ何レモ姓ヲ記ス

佐中兼吏部尚書弘文館學士臣光庭

黃門侍郎

給事中 等言

制書如右請奉 制付外施行

謹言

年月日 制可

右門下省ノ官人ナリ何モ姓ヲ記サズ

尚書左丞相 闕

開府儀同三司行尚書右丞相 璟

侍中 杜光庭ナリ吏部尚書ヲ兼
ユヘニ再見ニ名ヲ記ルヤス

吏部侍郎 林甫

形告某官奉被

制書如右符到奉行

年月日下

右ハ尚書省ノ官人ナリ何モ姓ヲ記ルヤス

右避暑録話ニ所カクノ如シ其時三省ノ官人改號

シテカクノ如クニ位置者姓名ヲ記ルコトナリ唐ノ時ニ三省ヲ

並ヘ置レテ中書ハ直ニ天子ノ旨ヲ受ク門下ハ詔勅ヲキ

ニシテ尚書省ハ出納ヲ掌リテ天下ノ事ヲウケ天子ノ

命令ヲ天下ヘ施行フコトヨリテ詔勅ノ始メニ中書令

以下宣奉行トシス門下者是ヲ受取テ侍中黃門侍
郎給事ノ官人連署シ制書如此云々ト書ス此次ニ
年號月日アリテ畫可ヲカウフリテ是ヲ尚書省ヘワタ
ス尚書省ノ官人左右丞相並ニ吏部尚書侍郎等連
名シテ勅ヲ受ル人ニ告ルヨシラレル又年號月日ヲヒテ
リ武官兵部ノ官連署ス畢竟中書省コレヲイタシ
テ門下ギンニヲトゲ尚書受取テ其人ニツカワスニ省ノ官
人トモニアツカレトナリ

本朝之制有詔書有勅書有位記有宣東宮曰令旨

詔書式

詔旨云々咸聞

年月御書日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔位臣姓名奉

中務少輔位臣姓名行

太政大臣位臣姓 已下外記ノ
ニルストコロナリ

左大臣位臣姓

右大臣位臣姓

大納言位臣姓名

大納言位臣姓名

大納言位臣姓名

大納言位臣姓名等言

今ノ時大納言四人ナリ俱ニ連名

詔書如右請奉

詔付外施行謹言

年月日

可 御書

右令ニテスル所詔書ノ式タラノ如シ其内大事ヲ以テ蕃國

ノ使ニ宣フニ詔旨トイフ上ニ明神御宇日本天皇トイフ

字ヲ加フルナリ朝廷ノ大事立坊立言ノ如キコトニハ明神

御宇大八州ヲホヤミノシマ天皇トイフ字ヲ加フルナリ中事任大臣以

上ノ事ニハ天皇詔旨ト書ス小事五箇ヲ授ル以上ニハタ

詔旨トハカリ書ス其餘ノコトハ同キコトナリ句レモ合ニ具サナリ

凡詔書内記御所ニ於テ作り訖テコシラ中務卿ニ給マ中

務卿是ヲ大輔ニ宣フ大輔奉レテ是ヲ少輔ニ付シ太政官

ニ送ラシム故ニ宣奉行ト云ナリモシ中務卿カクルトキハ大輔

ノ下ニ宣ト書シ少輔ノ下ニ奉行ヲアハセ書ス大輔モカクルトキ

ハ少輔ノ下ニ宣奉行ノ三字トモニ是ヲ書ス少輔モアラザレハ
丞録ニイタリテモ又如此唐ノ法ニ準ス中書ノ宣奉行是ニテ
○又詔書ハ内記草シオハリテ中務省ヘワタスソレニハ太政大
臣ト云ヨリ以下ハ外記ノ官人ノ中務省ヨリキタレ詔書ノ後於
テ注記ス故ニ外記ノ職掌ニ勤ル詔奏ト云

○又詔書ハスベテ三ニ通り寫シカユナリ先ツ内記ノ草ニ詔書
御書日ノアルヲ中務省ニトシテ案トス是レ一通ナリ中務省
ニテ別ニウツシカヘ即署レテ太政官ヘ送ル大納言奏聞シ天
皇畫可オハル是ヲトシテ案トス是ニテ二通ナリ且ク何レモ

官府ノヒカヘナリ太政官又更ニ一通ヲ寫シ施行ス是ニ三
通ナリ沈存中夢溪筆談云唐故事中書舍人職掌
詔詔皆寫四本一本為底一本為宣此宣謂行出
耳未以名書也晚唐樞密使自禁中受旨出付中
書即謂之宣中書承受録之於籍謂之宣底今史
館中尚有故宣底二卷如今之聖語簿也ト底ト文
書ノヒカエナリ唐ノ宣底トイフハ昂詔勅口宣ノ案ナリ本朝
コレニヨリテ損益アリ

○内記作詔畢或ハ自内秉仰内記令納管令參議以
作或大臣奉勅令作

上若内侍進御所御畫日訖置殿上札上掃部寮
 案而退下須臾參議以上一人升殿喚内豎召中
 務省稱唯出出日喚輔以上一人入自左掖門
 就版若雨水通自南南立承明勅曰參來稱唯
 升自南階立篋子敷當御勅曰書賜禮稱唯進取
 勅書管退出門用同既而御畫日者留為案別寫一
 通印署送太政官大納言覆奏畫可詔書畫可論
 訖留為案更寫一通施行頃年所行更不寫一通
外記畢即收

右内裏式下卷ニテリ式凡三卷弘仁十二年正月卅日右
 大臣冬嗣公奉勅撰天長十年二月十九日右大臣清
 原夏野公奉勅重校增損令ニ載テ通リテ益詳テ其
 内ヨリ時分ヨリ詔勅夕ニ通ウヌコト見ヘタリ

○勅旨式

勅旨云々

年月日

中務卿位姓名

大輔位姓名

奉^令

行^号

勅旨如右

符到奉

年月日

史位姓名

大辨位姓名

中辨位姓名

少辨位姓名

詔勅ト施行ノ法カレコトナレ其内臨時ノ大事ヲ詔ト
云尋常ノ小事ヲ勅トス同ク是綸言ナリ

○勅モ詔ト同キコトニテニ通^寫シカユナリ最初ニ勅ヲ受ル人

中務省へ宣送ス中務奏聞シオハリテ式ノ如ク署シテ本
紙ヲ留^テ案^トシ別ニ通^ヲ寫^シテ太政官へ送ル少辨以
上式ノ如ク連署シテ留^メテ案^トシ又別ニ通^ヲ寫^シテ
施行ス奉勅^日ト云文字ヨリ以下ハ辨官ノ史ノ注ス所ナ
リサテ詔ニ中務省ノ官人三人トモニ中務ノ字ヲ上ニシテ勅
旨ニハ始メバカリニ中務ヲレシテアトニハ重子テニサズ詔ト勅ト
ノ差別ナリ右ノワケ何レモ令ニ詳ナリ

○皇太子ニ令旨ト云其法又上ノ如シ其内令旨ヲ春宮坊
ハ宣送シ春宮坊ニテ啓聞シオハリテ晝日ヲ留^メテ案^トシ

別ニ一通ヲ第ニテ施行ス詔勅ヲヤ署ナリニ后モ長ニ準ス

○勅授位記式

中務省

本位姓名 年若干

今授某位

年月日

中務卿位姓名

太政大臣位姓名 大納言加名

式部卿位姓名

右古へ五位以上ニ位階ヲ賜フニシテナリニテ勅授位記ト

云見在ノ長官一人署ス中務卿太政大臣式部卿長官モシカントキハ大臣ニ大納言中務式部ニ大輔或ハ少輔式ノ如クニ署ス兵部モ亦同シ武官ハ兵部卿サヅクルニシテ

○奏授位記式

太政官謹奏

本位姓名年若干某國某郡人今授某位

年月日

太政大臣位姓名 大納言加名

式部卿位姓名

右ハ六位以下ニ位階ヲ授レシテナリ太政官奏聞シテ勅ヨ
ラザルヨリテ是ヲ奏授位記ト云フ故中務省ノ官人アツカラス

○判授位記式

太政官

本位姓名年若干某國某郡人今授某位

年月日

大納言位姓

式部卿位姓 少輔以上加名

右ハ外ハ位並ニ内外初位ニ位階ヲサツクルトキナリ太政官ノ判

ニテ奏聞ニオスザルヨリテ是ヲ判授位記ト云フ故謹奏

右詔勅位記ノ式令並ニ義解ニノスル所カクノ如シ其詳

ナレトハ本書ニツイテ考フヘシ但詔勅宣命等ノ各唐

ニモトヨリコナリ位記ト云コトハイマダ見アタラス本朝

ニテ始テ命セラレト見ヘタリ禁秘鈔云凡詔書勅書勅

符已上書詔書勅書復奏已上書論奏諸衛擬舍

人奏書聞字皇太子令畫日並ニ畫可ノワケ是ニテ

シルヒ又云勅書注ニ書黃紙自唐太宗貞觀始之

勅勅ノコトモ唐ノ法ニヨリテハジニト見ヘタリ

○宋ノ時詔勅ノ制ツノ名專ラ唐ニヨリツノ内詔ト云コトオモ詔ハモト三代ノ時上下ニ通用シテコレヲ稱スツレユハ仲虺之詔ノ如キハ下ヨリ上ヘ告ト用ユ洛詔大詔ノ如キハ上ヨリ下ヘ告ニ用ユ字書ニ詔者告也トイヘリ秦詔制ヲハシメテヨリコノカタ詔ノ名キコヘズ漢武帝トキ暫クコレリトイヘトモ官ニ命スルコトナシ宋ニ至リテ又コレヲ用ヒ制詔ト並稱ス知制詔ト云ハ制詔ヲ書クコトヲ掌ル官ナリ文體明辨ニ云唐世王言亦不稱詔至宋始以命庶官而追贈大臣貶謫有罪贈封其祖父妻室凡不宣于庭者皆用之ト是ナリ又明辨制

條下ニ云其詞宣讀于庭ト然ハ宋ノトキ同キ制書ノ内ニ庭手讀ヲ制ト云讀ヤテ詔トイフニ是ナリ制ト詔ト別ルベシ

○宋詔勅之式

宋朝告身ノ式王氏法書苑ノ内ニ是ヲノヌ唐ノ法ニ準

シテ少カリアリ左ニアラハス

門下朕惟

中大夫同知樞密院

范純仁

可特授太中大夫

一王者施行

五日

訓度通

三

侍中 朔

尚書左僕射兼門下侍郎臣大防

給事 中 臣 臨等言

制書如右請奉

制付外施行謹言

元祐三年四月五日

制可

四月六日辰時權都事獲安靜受

左司郎中黃廉付吏部

尚書令 朔

尚書左僕射 大防 未謝

尚書右僕射 純仁 未謝

尚書左丞 摯

尚書右丞 存 式 假

吏部尚書 頌

吏部侍郎 覺

告太中大夫 范純仁奉被

制書如右符到奉行

丁玠

次雲

郎中

魏宗式

令史

關

書令史

元祐三年四月六日下

右宋朝詔勅式全ク唐ニヨリテ少カリアリ中書省ノ
官人宣奉行ノコト見ヘズ其内上ニアクル唐ノ勅ニ令僕射
ノ名ニヘズ是ハ唐ノ時ニ尚書令ヲ置カズツノ上開元元年
ニ左右僕射ヲ改メテ左右丞相トセラルニヨリテカクノ如ク宋

○元祐ノ時ニ尚書令僕射アルニヨリテ上ノ通リナリ 本
三公連名同例ナリ

○元ノ時中書尚書アリテ門下ヲオカズ至元七年三省ヲ置
ンコトヲ議ス高鳴ガ上言ニヨリテツノ事ヤムト見ヘタリ八年尚
書ヲ併セテ中書ニ合ル故ニ中書ヨリ詔書ヲ六部郡國下
スツノ詔令ハ八府宰相典蒙古翰林院官同譯寫シテ
之ヲ潤色スト何レモ續通考ニ詳ナリツレハ詔首ニ門下ノ
字ナレ明ノ楊升庵集ニ云旨詔首稱紀綱唐詔首稱門
下元詔首稱指揮惟本朝詔首直入事

○明ノ制又詔アリ誥命アリ勅命アリ冊アリ凡テ五品以上ニ命スル勅ト云以下ハ誥ト云郊祀立后立儲等ハ冊アリ文體明辨大明會典等ニ詳ナリ會典兵部ノ下ニ云洪武中職掌所定一品至五品曰誥命以下曰勅命又工部ノ下ニ云誥織用五色紵絲其前織文曰奉天誥命勅織用純白綾其前織文曰奉天勅命俱用升降龍文左右盤繞後俱織某年月造帶俱用五色

○文體明辨云今制命官不用制誥至三載考績則用誥以褒美五品以上官而贈封其親及賜大臣勲階贈謚皆用之六品以下則用勅命云々

○又云今制郊祀立后立儲封王封妃亦皆用冊而金玉銀銅之制各有等差蓋自古迄今王言之所不可闕者也ト凡テ立儲ハ儲君ヲ立ラズ立太子ノ事ナリ 本朝ニユレテ立坊ト云

○明ノ時三省ノ官ナキニ唐宋ノ誥勅トハ體式同カラズ首ニ奉天承運皇帝若ト書テ直ニ綸言ヲ書キ載テ百官ノ連署並ニ畫可畫日等ノ事ナレ奧ニ年號月日

ヲ書シテ首末ニ廣運之寶ト云四大字ノ御寶ヲ押スナリ

▲冊授勅授等ノ事

○唐ノ時官位ヲ授ニ冊授制授勅授旨授判補ノ五等アリ冊授ト云ハ竹冊ニ書ス諸王並ニ二品以上ノ一是ヲ多制授ハ五品以上勅授ハ六品以下コノ三等ハ何モ宰相ノ所行ナリ旨授ハ六品以下文武官尚書省ヨリコヲ授分視品流外官判補ナリ詳ニ通典ニ具レリ又ラ下ニノス

○通典云凡諸王及職事正三品以上若文武散官二品以上及都督都護上州刺史之在京師者冊授冊用竹簡五品以上皆制授六品以下守五品冊用漆

以上及視五品以上皆勅授凡制勅授及冊拜皆
宰司進擬自六品以下旨授其視品及流外官皆
判補之凡旨授官悉由于尚書文官屬吏部武官
屬兵部謂之銓選唯負外郎御史及供奉之官則不

唐授官五等圖
冊授
制授
勅授
旨授
判補

本朝之制除官曰任叙位曰授各有三等

○唐ノ制ハ官稱位階ニ通用シテ上ノ五等ノ別アリ 本朝ノ

法ハ官ト立ト各別ニシテ官ニ除スヲ任トステ勅任奏任判

任ノ別アリテ其下ヲ判補ト云位ヲ叙スヲ授ト云テ勅授奏

授判授三等ノ別アリ是モ唐ノ制ニヨリテ損益アリ

○勅任ト云天皇ノ直ニ命シタマヒテ官ニ任スラヌ大納言以

上左右大辨等ノ如ク是ナリ奏任ト云大臣ノ奏聞ニヨリテ

任ス官内外諸司ノ主曲以上等ナリ判任ト云上へ奏ス三

及ズ大政官ノ判断ニテ任ス官郡ノ主政等ナリ判補ト云

八式部省ノ判断テ補ス職舎人史生等ノ如キ是ナリ

○位ニテ勅授トス内外五位以上奏授トス内八位外七位
已上判授トス内外初位以上勅奏判ノワケ任官ノ例ト
同シキコトナリ令ノ支ヲ考フニ

本	勅任
朝	奏任
授	判任
任	判補
三	勅授

右注官三等

等 奏授
圖 判授 右授位三等

○元ノ時一品ヨリ五品ニ至ルヲ宣授トス六品ヨリ九品ニ至ルヲ
勅授トス勅授ハ中書署^ス_ラ宣授ハ制ヲ以テコレヲ命マ

○明ノ制又唐ノ制ニヨレリ四品以上並ニ在京堂上五品在
外方面官ハ何レモ職名ヲ具シ申シ上ケテ上裁ヲ取リ唐ノ
制ノ勅授ナリコレノ外五品以下在外四品方面ニアラサルモノ
ゾノ職任ヲ定メソノ上ニ奏聞ス唐ノ旨授ナリソノ事丘
氏ノ所裁補ニ具サナリ

○又大明會典ヲ按スニ洪武二十六年ニ詔勅ノ等級ヲ
定メラレ一品ヨリ五品ニテハ授ルニ詔命ヲ以シ朱印ニ制詔
之寶ヲ用ユナリ六品ヨリ九品ニテハ授ルニ勅命ヲ以シ朱印
ニ勅命之寶ヲ用ヒラル婦人ハ何レモ夫ノ品級ニシタカフ又
又簿ヲ作り詔勅ト各字ヲ辨ラ編テ合モントシニ夕寶ヲ
用ニテ是ラシシ其文簿ハ内府ニオサムナリ

○又大明會典ニ按スニ洪武二十六年ニ詔勅ノ等級ヲ定メラレ一品ヨリ五品ニテハ授ルニ詔命ヲ以シ朱印ニ制詔之寶ヲ用ユナリ六品ヨリ九品ニテハ授ルニ勅命ヲ以シ朱印ニ勅命之寶ヲ用ヒラル婦人ハ何レモ夫ノ品級ニシタカフ又又簿ヲ作り詔勅ト各字ヲ辨ラ編テ合モントシニ夕寶ヲ用ニテ是ラシシ其文簿ハ内府ニオサムナリ

圖 傳 錄

